

## 地域おこし協力隊だより

「滝上秋の香り」

観光協会勤務

吉田 龍ノ介

周りの草木が色づき始め、秋の訪れを感じますね。また、農産物が大きなトラックに山積み運ばれていく様子は、収穫の秋を思わせてくれる風物詩ですね。滝上町の野菜の美味しさは、寒暖差の激しさのおかげだと農家さんに教えられました。人間に対して厳しい環境かと思いますが、それで美味しい野菜を食べられると思うと楽しみが一つ増えますね。

そんな滝上町の風土に適した作物として、栽培されている「和種薄荷」。明治から昭和にかけて滝上町を含めた北見地方では薄荷の栽培が盛んだったようです。一時は世界市場の7割を占めるほどだったのですが、大戦や、合成品の発達により、衰退の一途を辿りました。しかし、今でも滝上町ではその栽培を絶やさず、今では日本の農業生産の約95%を誇っているそうで

す。

薄荷というのは、生の葉や、乾燥させた葉、抽出した油等様々な状態で出荷するようすが、油を抽出してから出荷する場合は、大量の葉からとれる油は少量しか取れず、大変貴重な物。薄荷の語源も荷物が少なく（薄く）なることからといわれる説もあります。都市部から離れて輸送手段が限られていた滝上町にはうつつの作物でもあったのですね。



▲町内の薄荷畑

最近では、薄荷農家が集まり、「滝上町和ハッカ・フボ」を立ち上げ、今後は薄荷を使った特産品の開発や研究をしていくそうです。今年には第一弾としてアウトドアミストが発売されました。滝上の天然

和ハッカを100%使用した

この商品は、渚滑川の釣匠が使いやすい形状などにこだわって作られており、町内に来る釣り人や、ガーデニング好き、キャンプ好きなど、様々な方に好評なようです。

今年、薄荷生産現場を新たな産業観光資源とするため、薄荷農家さんのご協力で、実際の現場等を見学できる薄荷に特化した札幌発着バスツアー等に取り組んでいます。

昨今、天然の製品が注目されていますので、滝上町の薄荷製品が注目され、町中が薄荷の香りに包まれ活気が戻ることを期待しております。



▲薄荷の刈り取り

### ▼問い合わせ先

まちづくり推進課

☎2912111(内254)

## よこじろ通信



【高知県越知町】

9月2日、3日に東京ビッグサイトで行われた、「第3回ふるさと納税大感謝祭」に『よこじろ』が参加しました。

広い会場の中には、北は北海道から南は沖縄まで、全国さまざまな自治体が集まり、特産品などのPRを行いました。

その中で『よこじろ』は越知町をPRするために、自らブースの前に立ち、そのかわいらしい動きで、お客さんたちをとりこにしていました。また、高知生まれの血が騒いだのか、よさこいの曲がかかると飛び入りで、東京のよさこいチームと踊りました。山にいたるだけではできない体験ができて、『よこじろ』は満足そうでした。次回県外に行くときは、ピッコロにも会いたいようです。

ふるさと納税  
大感謝祭に  
参加してきました！

